

[株主のみなさまへ]

第20期 決算のご報告

2023年4月1日から
2024年3月31日まで

Respect

証券コード:6674

Full-year Digest

第20期(2024年3月期) 通期 連結業績ハイライト

売上高

5,628億円
前期比 +8.7%

営業利益

415億円
前期比 +32.0%
のれん等償却前営業利益
422億円

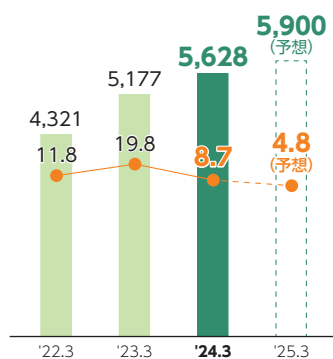
経常利益

439億円
前期比 +81.6%

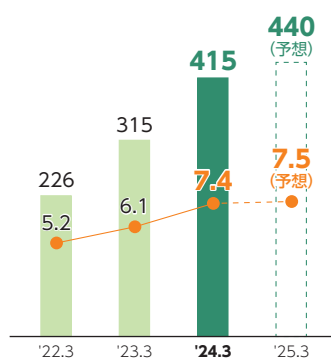
親会社株主に帰属する
当期純利益

320億円
前期比 +130.2%
のれん等償却前親会社株主に
帰属する当期純利益
326億円

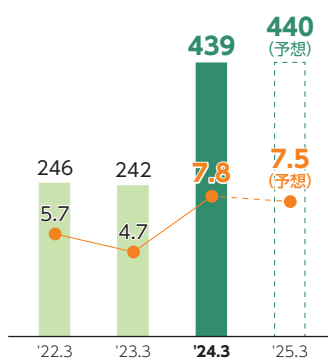
売上高(億円) ■■■
売上高成長率(%) ●●●



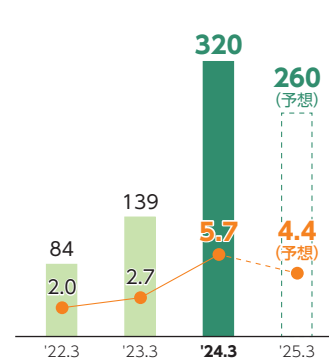
営業利益(億円) ■■■
営業利益率(%) ●●●



経常利益(億円) ■■■
経常利益率(%) ●●●



当期純利益(億円) ■■■
当期純利益率(%) ●●●



売上高・営業利益のポイント

- ハイブリッド車用リチウムイオン電池・ESSの販売数量が増加
- 販売価格は正による効果

経常利益・当期純利益のポイント

- 持分法による投資損益の改善
- 正味貨幣持高による利得の増加

第21期(2025年3月期) 連結業績予想

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
5,900億円	440億円	440億円	260億円

第21期(2025年3月期) 配当予想

中間	期末	合計
20.00円/株	50.00円/株	70.00円/株

Top Message

売上高・各利益とも過去最高となりました。 また、期末配当金を1株当たり55円(年間70円)に増配します。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界経済は、サプライチェーンの回復が進み、自動車生産台数が回復に向かう等、緩やかに持ち直しの動きが見られました。一方で、ウクライナや中東等の地政学リスク、世界的な金融引締め政策やインフレに伴う景気下振れリスク、金融市場の変動等、先行き不透明な状況が続いています。

このような経済状況の中、当社グループでは、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池およびESS*の販売数量が増加していることや、販売価格是正の取り組み等を進めていることにより、売上高は5,628億97百万円と前連結会計年度に比べて451億62百万円増加(+8.7%)しました。これに伴い、営業利益は415億95百万円(のれん等償却前営業利益は422億29百万円)と前連結会計年度に比べ100億95百万円増加(+32.0%)しました。経常利益は持分法による投資損益の改善や正味貨幣持高による利得の増加等により、439億81百万円と前連結会計年度に比べて197億67百万円増加(+81.6%)しました。親会社株主に帰属する当期純利益は、320億64百万円と、前連結会計年度に比べて181億38百万円増加(+130.2%)しました。

2024年度は、ハイブリッド車用リチウムイオン電池およびESSの販売数量増加により、売上高5,900億円、営業利益440億円、経常利益440億円、親会社株主に帰属する当期純利益260億円を目指します。

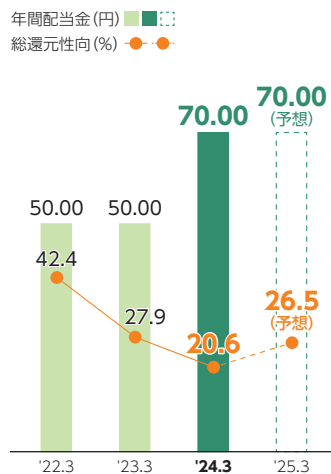
引き続き当社グループへのご支援をお願いいたします。

※電力貯蔵システム(Energy Storage System)

2024年5月10日

代表取締役
取締役社長 村尾 修

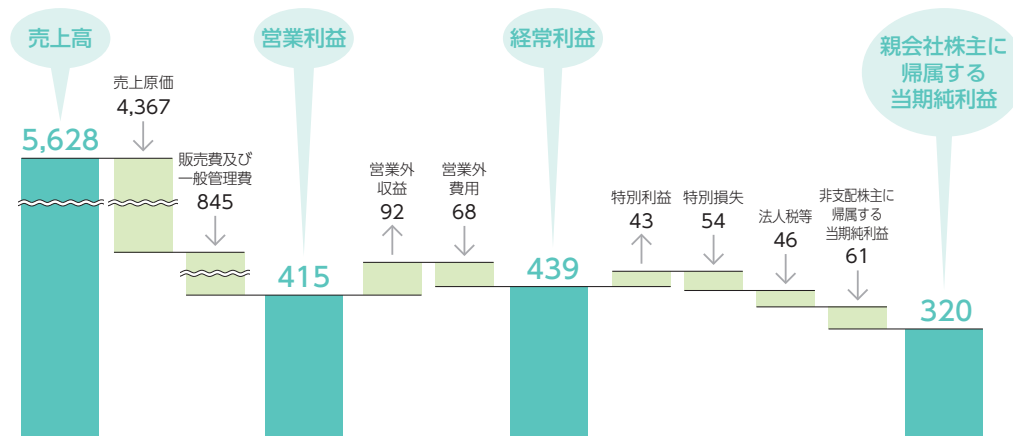
株主還元(配当金)



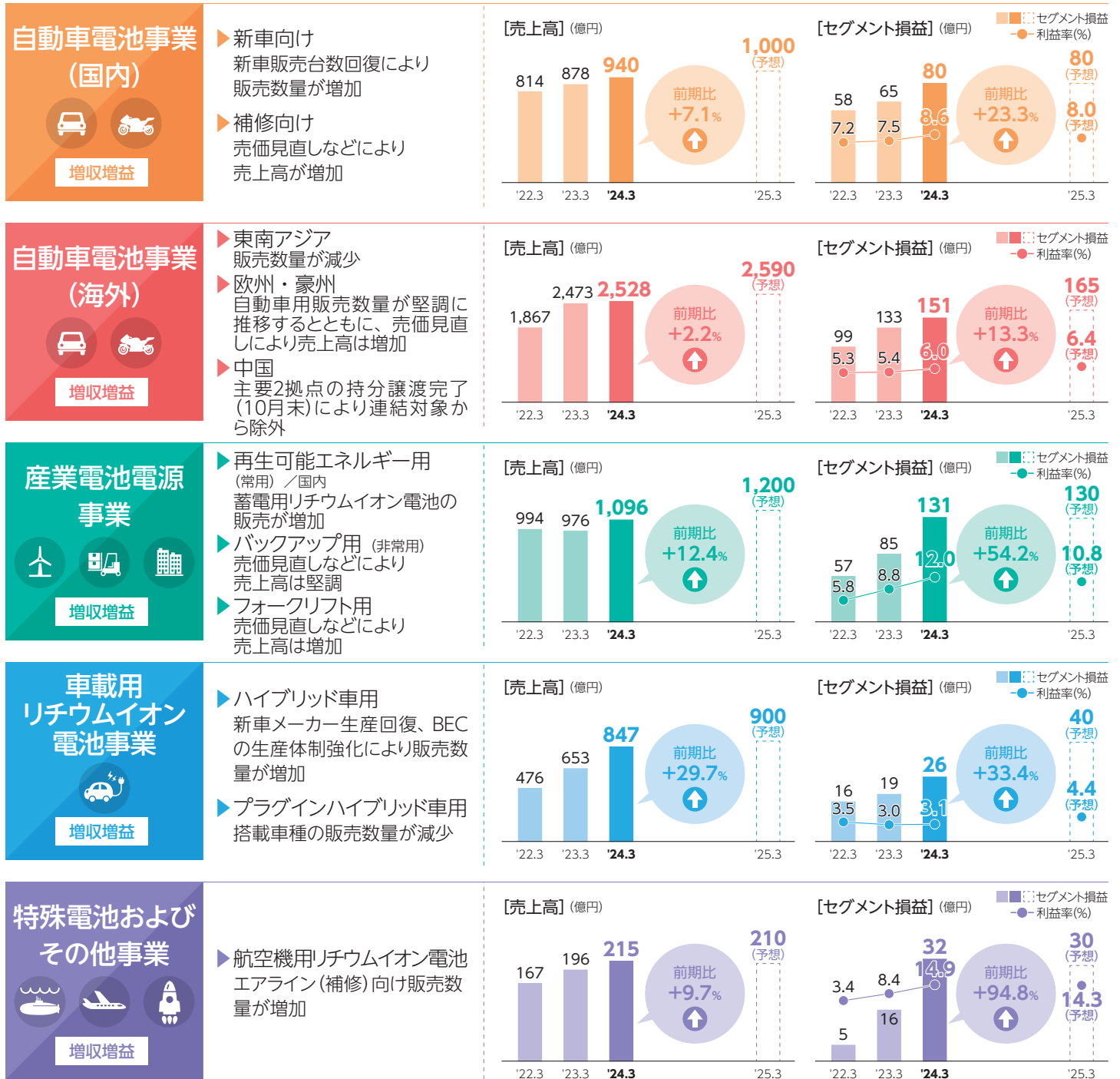
※総還元性向はのれん等償却前当期純利益に対するものです。

連結損益計算書

[当期(累計)](2023年4月1日~2024年3月31日) (億円)



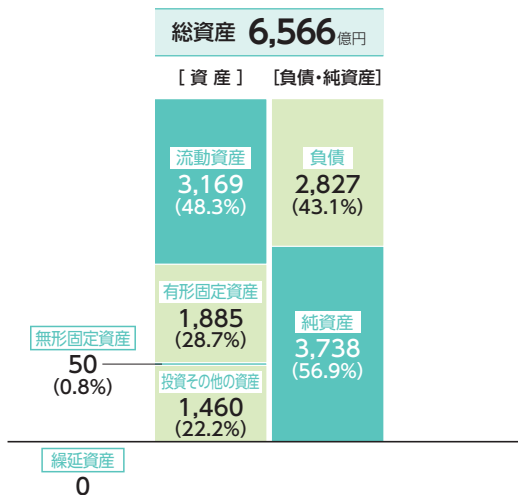
セグメント別連結業績



(注) 1. セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。
2. 2024年3月期より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。

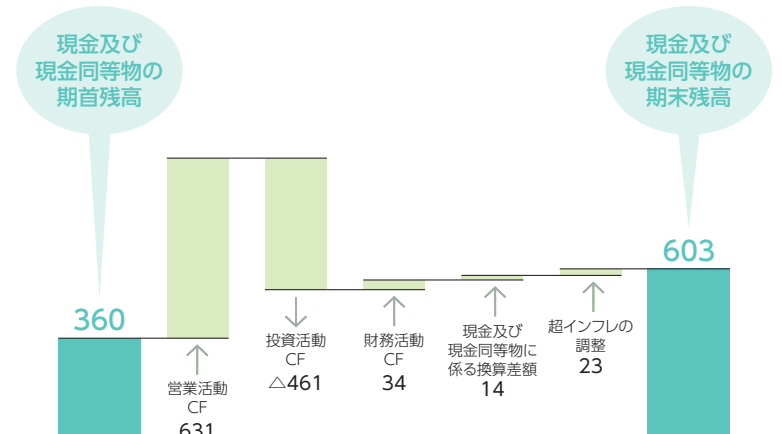
連結貸借対照表

[当期末] (2024年3月31日) (億円)



連結キャッシュ・フロー計算書

[当期(累計)] (2023年4月1日~2024年3月31日) (億円)



Topics

1

東京都「系統用大規模蓄電池導入促進事業」において 14.9MWhのリチウムイオン蓄電池設備が採用 ～再生可能エネルギーの活用および電力システムの安定に貢献～

株式会社 GSユアサは、坂東蓄電所1号合同会社（共同出資者：グリーンパワーマネジメント株式会社、東北電力株式会社）が東京都の「系統用大規模蓄電池導入促進事業」の助成を受けて建設する埼玉県熊谷市と群馬県伊勢崎市の蓄電所に合計14.9MWhのリチウムイオン蓄電池設備を納入します。

近年導入が進む再生可能エネルギーは、天候や時間帯により発電量が変動することから、電力システムの電力需給バランスが不安定になること、電力需要が少ないときに発電出力を制御せざるを得ないことが課題です。本設備は、連系している電力システムへ充放電を行い、需給バランスを調整することで電力システムを安定させ、再生可能エネルギーの活用に貢献します。

本設備には、産業用リチウムイオン電池[LEPS-2-14]を搭載します。今回、GSユアサ製品の品質や安全対策、迅速なアフターサービス体制が評価され、採用が決定しました。



埼玉県熊谷市
弥生蓄電所イメージ図
(2025年2月稼働開始予定)

群馬県伊勢崎市
韮塚蓄電所イメージ図
(2025年6月稼働開始予定)

※イメージ図の著作権は坂東蓄電所1号合同会社に帰属します。

2024年3月18日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/207>



Topics

2

トヨタ系ハイブリッド車用VRLAバッテリー（補機用） 「ECO.R HV」シリーズをリニューアル発売

株式会社 ジーエス・ユアサ バッテリー(GYB)は、トヨタ系ハイブリッド車(HEV)に対応する補機用VRLAバッテリー※1「ECO.R HV(エコ.アール ハイブリッド)」シリーズを2024年6月にリニューアル発売します。

HEVには駆動用と補機用2種類のバッテリーが搭載されており、駆動用のメインバッテリーにはニッケル水素電池またはリチウムイオン電池が、システムの起動などを担う補機用バッテリーには鉛蓄電池が使われています。

補機用VRLAバッテリーは、トヨタ製HEVの多くに新車搭載部品として採用され、当社は他社に先駆けて補修用バッテリーを発売してきました。

このたびのリニューアルでは、ラインアップ5サイズのうち、B20とB24の2サイズで性能ランク※2を向上し、突然のバッテリーあがりの可能性を低減。車両の起動不能リスクに備えます。

GYBはこれからも自動車用バッテリーへのご期待・ご要望に高い技術力で応え、安心・安全なカーライフに貢献します。



[ECO.R HV]
シリーズ
(EHJ-S55B24R)

2024年4月25日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/225>



※1 補水・液量チェックが全く不要で、酸素や水素ガスの発生が少なく、酸素ガスをマイナス極板で吸収するバッテリー。極細ガラス繊維のガラスマットで出来た特殊なセレータに電解液を染み込ませており、流動可能な電解液が少なく、耐漏液性に優れています。万一、過充電などの場合には、バッテリー内部のガスを放出する構造となっています。

※2 バッテリーの総合性能(始動性能・容量)を表し、数字が大きくなるほど性能が高くなります。

Topics

3

ブルーエナジーがHonda 2024年優良感謝賞 「サステナビリティ部門」を受賞

株式会社ブルーエナジーは、本田技研工業株式会社より、ESGの各領域に於ける優れた取り組みを評価いただき、優良感謝賞「サステナビリティ部門」を受賞しました。

本受賞は、2022年の「原価部門」、2023年の「原価部門」「デリバリー部門」ダブル受賞に続き3年連続となりました。

2024年3月12日のお知らせはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/204>



優良感謝賞「サステナビリティ部門」表彰盾

ご案内

Announcement

代表取締役社長 交代に関するお知らせ

当社は2024年6月27日開催の第20期定時株主総会ならびに取締役会において、代表取締役社長の交代を決定いたしました。代表取締役社長には阿部 貴志が就任し、前任の村尾 修は取締役会長に就任いたします。

取締役会長

村尾 修



代表取締役 取締役社長

阿部 貴志



阿部新社長よりご挨拶

この度、代表取締役 取締役社長に就任いたしました阿部貴志です。

GSユアサは、100年を超える歴史のなかで、電池・電源システム技術の革新と成長を以って時代の要請に応え、社会の発展に貢献してまいりました。これまで当社が成長を続けられたのは、お客様の課題に対して真摯に取り組み、高性能・高品質な製品とフィールドサービスで安心・安全といった付加価値を提供し続け、「信頼」を獲得してきたからこそのものであります。

当社の母体である日本電池とユアサ コーポレーションの創業者が大切にしてきた発明家精神とチャレンジ精神は、現在においても不変の精神として当社の企業理念「革新と成長」に受け継がれています。変化の激しい時代に適応していくために、グループ全体で「革新と成長」を実践し、社会におけるGSユアサの存在意義を明確にしていかなければいけません。

当社の電池・電源システム技術は、脱炭素をはじめとする持続可能な社会を実現するうえで欠くことができない技術の一つだと考えています。当社は、モビリティと社会インフラの発展に必要なデバイスとそれらに付随するアプリケーションに対して先進技術を提供することで、エネルギーマネジメントカンパニーを目指します。また、全方位で電池技術を提供することで、持続可能な社会と当社の持続的な成長を共に実現する考えです。

ステークホルダーの皆様におかれましては、100年先も必要とされる企業であり続けるために、「革新と成長」にまい進する当社に、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新任代表取締役の略歴

氏名 阿部 貴志 (あべ たかし)

生年月日 1965年10月17日(58歳)

出身地 東京都

最終学歴 専修大学 経営学部 卒業

略歴 1989年 4月 日本電池(株)
(現(株)GSユアサ)入社
2003年 3月 GS Battery U.S.A. Inc.社長
2010年 4月 (株)GSユアサ経営戦略室担当部長
2016年 6月 同社執行役員
2016年10月 (株)GSユアサ エナジー取締役副社長
2018年 4月 (株)GSユアサ産業電池電源事業部
副事業部長
同社産業電池電源事業部
海外販売本部本部長
2022年 4月 同社取締役(現任)
2023年 4月 同社自動車電池事業部事業部長

村尾会長よりコメント

阿部新社長は、営業職からアメリカ子会社の社長を経験し、経営戦略室においてパナソニック(株)の鉛蓄電池事業の譲受に携わった後、(株)GSユアサ エナジーの副社長、産業電池電源事業部、自動車電池事業部とさまざまな経験を積んでおり、バランスが取れた人物です。周りの意見を聞いたうえで意思決定ができる人材なので、Vision 2035実現に向けて、「既存事業の稼ぐ力を強化し、リチウムイオン電池などの成長事業に投資していく」という方向性を強固にし、変革を成し遂げてもらいたいと思っています。



会社概要 (2024年3月31日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事業目的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	2004年4月1日
資本金	52,841百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホームページ	https://www.gs-yuasa.com/jp/
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場

役員

〔株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション(純粋持株会社)〕

(2024年6月27日現在)

取締役会長	村尾修
代表取締役・取締役社長	阿部貴志
代表取締役・取締役副社長	澁谷昌弘
取締役	松島弘明
社外取締役(非常勤)	松永隆善
社外取締役(非常勤)	野々垣好子
社外取締役(非常勤)	日戸興史
監査役(常勤)	中川正也
監査役(常勤)	真田芳行
社外監査役(非常勤)	藤井司(弁護士)
社外監査役(非常勤)	辻内章(公認会計士)

〔株式会社 GSユアサ(事業子会社)〕

(2024年6月26日現在)

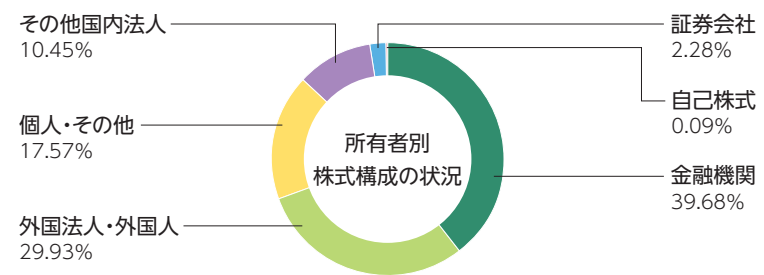
取締役会長	村尾修
代表取締役・取締役社長	阿部貴志
代表取締役・取締役副社長	澁谷昌弘
常務取締役	奥山良一
常務取締役	谷口隆
取締役	福岡和宏
取締役	大前孝夫
取締役	松島弘明
取締役	野瀬佳一
取締役	西山浩一
監査役(常勤)	中川正也
監査役(常勤)	真田芳行
社外監査役(非常勤)	松山秀樹(税理士)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
280,000,000株	100,446,442株	41,822名



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	14,912,900	14.86
(株)日本カストディ銀行(信託口)	4,981,540	4.96
本田技研工業(株)	4,915,750	4.90
明治安田生命保険(相)	2,800,000	2.79
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,452,075	2.44
トヨタ自動車(株)	2,236,080	2.23
BNP PARIBAS NEW YORK BRANCH - PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACCOUNT	1,936,714	1.93
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	1.86
日本生命保険(相)	1,789,133	1.78
(株)京都銀行	1,548,069	1.54

※出資比率は、発行済株式数から自己株式数を減じた株式数(100,351,160株)を基準に算出しています。

株主インフォメーション

○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

○未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

(注)1 本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入しております。
(注)2 本報告書に含まれている将来予測等は作成日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって予測等と異なる結果となる可能性があります。

☑ IRメール配信サービスのご案内

当社のIRに関する最新情報をメールでお知らせいたします。

<https://ir.gs-yuasa.com/jp/ir/irmail.html>

登録はこちらから



株主さまアンケート ご協力の御礼

「第20期 第2四半期 決算のご報告」にて実施いたしました株主さまアンケートに多数のご協力を賜り、誠にありがとうございました。いただいたご意見は今後のIR活動に生かしてまいります。